

株式会社ATグループ

2023年度

(2023年4月～2024年3月)

環境経営レポート



グループ SDGs 包括目標



発行：2024年7月31日

《 目 次 》

1. 組織の概要	1
2. 認証の対象範囲	2
(1) エコアクション 2.1 の対象範囲	
(2) 環境管理最高責任者および 環境管理統括責任者	
(3) 2023年度エコアクション 2.1 推進体制・組織図	
(4) 推進体制の役割・権限・責任	
3. 環境経営方針	5
(1) A Tグループ環境基本方針	
(2) 具体的な推進事項	
4. 2023年度 環境経営計画	6
5. 環境経営目標および実績評価	7
(1) ATグループ全体	
(2) オートタウン高辻	
6. 環境経営の取組結果と評価	9
7. 環境関連法規制の遵守および評価	13
(1) 適用となる環境関連法規	
(2) 環境関連の法規違反・苦情の有無	
8. 代表者による全体評価と見直し	14
9. 2024年度の環境経営計画	15
(1) 環境経営目標	
(2) CO ₂ 削減に向けた取組事項	
(3) 2024年度エコアクション 2.1 推進体制・組織図	
【参考資料】	
2023年度グループ事業会社の取組結果	19

1. 組織の概要

- (1) 事業所名および代表者
株式会社 A T グループ
代表取締役 山口 真史



- (2) 所在地
〒466-0057
愛知県名古屋市昭和区高辻町 6 番 8 号
ATG南館 8 階

- (3) 事業活動の内容

下記の会社の株式を保有し、その会社の経営管理およびそれに付帯する業務

《エコアクション 2.1 認証取得事業会社》

- ・ 愛知トヨタEAST株式会社
- ・ 愛知トヨタWEST株式会社
- ・ トヨタ L & F 中部株式会社
- ・ 株式会社トヨタレンタリース愛知
- ・ 愛知スズキ販売株式会社
- ・ 株式会社アトコ / 株式会社トランサット
- ・ 愛知クレジットサービス株式会社
- ・ トヨタ情報システム愛知株式会社
- ・ トヨタホーム愛知株式会社
- ・ 株式会社 A T ビジネス
- ・ A T グループ健康保険組合

- (4) 事業の規模 (2024年 3 月 ※連結値)
- | | |
|------|------------|
| 売上高 | 411,536百万円 |
| 従業員数 | 6,915人 |

2. 認証の対象範囲

(1) エコアクション 2 1 対象範囲

- 事業活動：グループ会社全体の経営戦略立案・各社の経営統括と運営、
新車・中古車の販売、自動車の整備・修理、産業車両・物流システム
の販売、情報システム開発・運用、旅行代理店業、グループ各社
の管理委託業務

【オートタウン高辻】	会社名(略称)	拠点名	主な事業または用途
ATG南館	(株)ATグループ (ATG)	本社	グループ各社の経営管理
	愛知トヨタEAST(株) (ATE)	本社	自動車販売拠点の統括管理
	愛知トヨタWEST(株) (ATW)	本社	自動車販売店の統括管理
		高辻店	自動車販売
	トヨタL&F中部(株) (LF)	本社	産業車両・物流システム販売拠点 の統括管理
	(株)トヨタレンタリース愛知 (RA)	本社	自動車レンタル・カーシェアリング
	トヨタ情報システム愛知(株) (TISA)	名古屋事業所	システム開発
	(株)ATビジネス (ATB)	本社	グループ各社の関節業務
ATG北館	—	—	会議室

会社名(略称)	拠点数	会社名(略称)	拠点数
愛知トヨタEAST(株) (ATE)	9 6	愛知トヨタWEST(株) (ATW)	1 0 6
トヨタL&F中部(株) (LF)	2 8	(株)トヨタレンタリース愛知 (RA)	7 1
愛知スズキ販売(株) (AS)	17	(株)アトコ/(株)トランサット (ATK/TS)	9 / 3
愛知クレジット(株) (AC)	1	トヨタ情報システム愛知(株) (TISA)	2
トヨタホーム愛知(株) (HA)	1 6	(株)A T ビジネス (ATB)	5
A T グループ健康保険組合 (健保)	1		

★2024年10月 対象範囲拡大予定

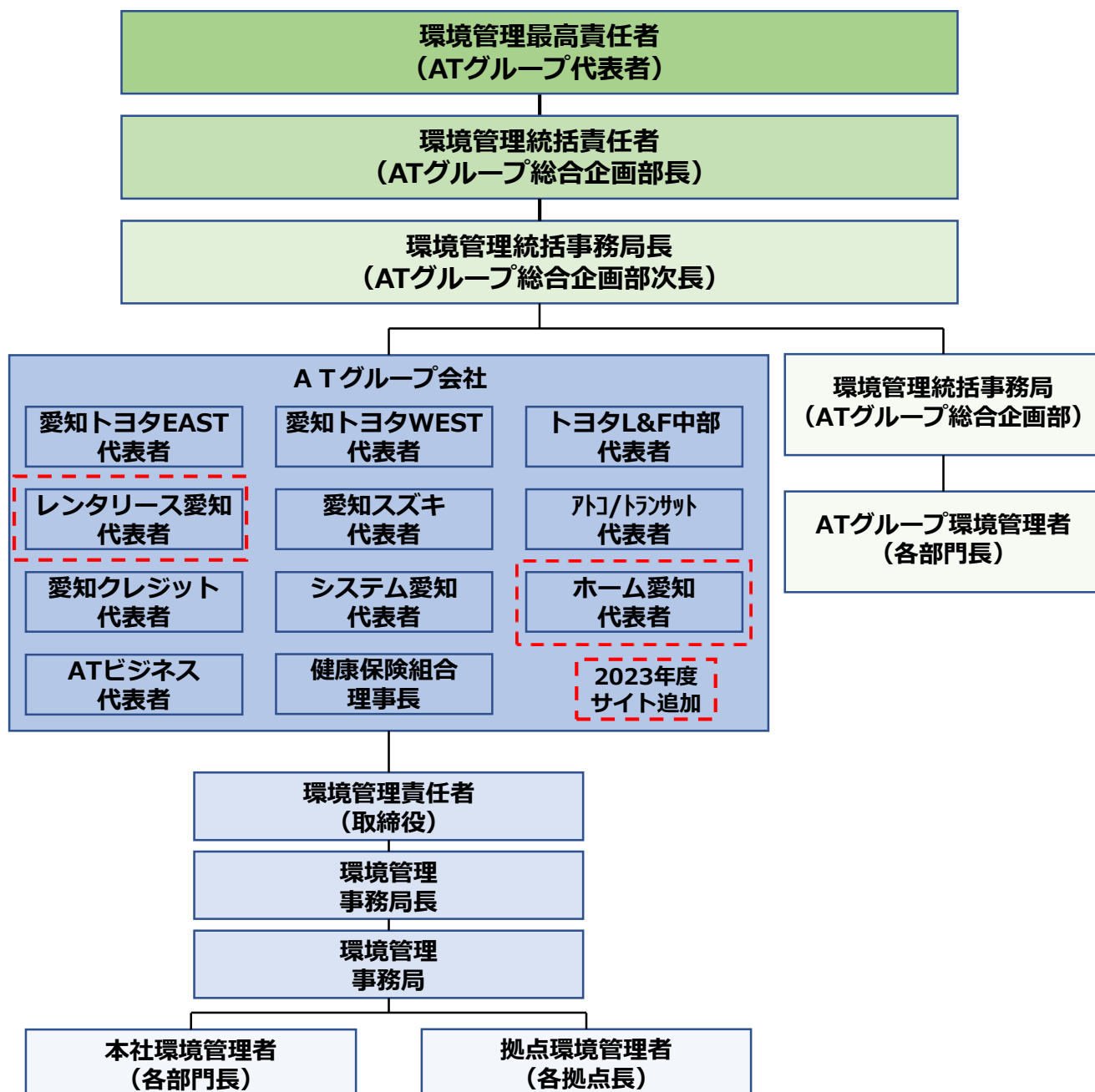
会社名	拠点数
(株)アトコ 食品部門	8

(2) 環境管理最高責任者および環境管理統括責任者

環境管理最高責任者：山口 真史

環境管理統括責任者：家永 博文

(3) 2023年度 エコアクション21 推進体制・組織図



(環境管理事務局 担当者)
 (株)ATグループ 総合企画部 総合企画課 子安 芳嗣
 (連絡先) 052-626-4389

(4) 推進体制の役割・権限・責任

グループ全体の推進に関わる役割・責任・権限	
環境管理最高責任者	環境経営に関する統括責任
環境管理統括責任者	- 環境経営に関する統括責任 - 環境推進の実施に必要な人、設備、費用、時間を準備 - 環境管理統括事務局長を指名 - 環境方針の策定、見直しおよび全従業員への啓蒙 - 環境経営レポートの報告 - 環境目標、環境活動計画を報告 - 全体の評価と見直しを実施
環境管理統括事務局長	- 環境推進体制の構築、実施、管理 - 環境関連法規等取りまとめ表を承認 - 環境経営レポートの確認 - 環境目標、環境活動計画を確認
環境管理統括事務局	- 環境管理統括事務局長の補佐、会議の事務局 - 環境負荷および環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境目標、環境活動計画案の作成 - 環境活動の実績集計 - 環境関連法規等の取りまとめ表を作成し遵守評価の実施 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポートの作成、公開
各社の推進に関わる役割・責任・権限	
代表者	環境経営に関する統括責任
環境管理責任者	- 環境経営に関する統括責任 - 環境推進の実施に必要な人、設備、費用、時間を準備 - 環境管理統括事務局長を指名 - 環境方針の策定、見直しおよび全従業員への啓蒙 - 環境経営レポートの報告 - 環境目標、環境活動計画を報告 - 全体の評価と見直しを実施
環境管理事務局長	- 環境推進体制の構築、実施、管理 - 環境関連法規等取りまとめ表を承認 - 環境経営レポートの確認 - 環境目標、環境活動計画を確認
環境管理事務局	- 環境管理事務局長の補佐、会議の事務局 - 環境負荷および環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境目標、環境活動計画案の作成 - 環境活動の実績集計 - 環境関連法規等の取りまとめ表を作成し遵守評価の実施 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポートの作成
環境管理者	- 自拠点（部門）における環境方針の周知 - 自拠点（部門）における環境推進活動の実施 - 自拠点（部門）の従業員に対する教育訓練の実施 - 自拠点（部門）に関連する環境活動の報告、記録の作成 - 自拠点（部門）の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	- 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 - 決定事項を守り、自主的かつ積極的に環境活動へ参加

3. 環境経営方針

(1) ATグループ環境基本方針

ATグループは、地域に密着した企業として、あらゆる事業活動に伴う環境負荷を低減することで環境保全に努めるとともに、積極的な環境投資や従業員の環境意識向上を図ることにより、「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に寄与します。

- ◆環境関連法令の遵守
- ◆積極的な環境負荷低減活動
- ◆パートナーを巻き込んだ環境活動推進
- ◆環境教育の持続的な実施
- ◆環境関連情報の開示

2015年4月22日制定
2023年3月17日改正
株式会社ATグループ
代表取締役社長 山口 真史

(2) 具体的な推進事項

環境関連法令の遵守

- ・環境関連法規制、条例を定期的に確認し遵守します

積極的な環境負荷低減活動

- ・エネルギー使用量、CO₂排出量、プラスチック製品の排出削減に取り組みます

パートナーを巻き込んだ環境活動推進

- ・お客さまやお付き合いのある協力会社みなさまにも私たちの活動をご理解いただきながら活動を推進します

環境教育の持続的な実施

- ・教育プログラムによる従業員教育を実施します

環境関連情報の開示

- ・環境活動に係る情報についてHP等を通じて開示します

9. 2023年度 環境経営計画

(1) 環境経営目標

① 環境法令の遵守

- ・環境関連法令の改正情報についてWEBサービスを使用し定期的に監視する
- ・法令改正情報を随時伝達し情報共有する

② CO₂排出量の削減

《電力使用量の削減》

- ・節電啓蒙ポスターの掲示
- ・不要照明の消灯
- ・室内温度を基準とした空調設定（夏季：28℃・冬季：20℃）
- ・クールビズ、ウォームビズの推進

《燃料使用量の削減》

- ・社有車全てエコカーを使用
- ・エコドライブの推進

③ 廃棄物排出量の削減

- ・各所ごみ箱の設置数を制限し、発生抑制に努める
- ・ごみ分別廃棄ルールを定め、分別廃棄を実施
- ・建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上

④ 水使用量の削減

- ・手洗い時の流し放しをしない
- ・施設設備は節水タイプを優先して使用

⑤ リサイクルの推進

- ・古紙は品目別に分別廃棄し、リサイクル可能な回収業者に委託
- ・資源ごみ（びん、缶、ペットボトル）はリサイクル可能な回収業者に委託

⑥ 社会貢献活動の推進

- ・毎月1回、地域貢献として近隣の清掃活動を実施
- ・地域への貢献活動を積極的に実施

⑦ 環境教育の実施

- ・グループ統一、環境マネジメント「EMSファイル」を活用した包括的な管理を実施
- ・環境教育ツールを活用し、従業員教育を継続的に実施

⑧ 次世代自動車の推進

- ・低炭素社会へ貢献するため、次世代自動車の使用および販売を推進
（次世代自動車＝HEV、PHEV、BEV、FCEV）
- ・お客さまへ自動車使用に関わる「環境影響」をご説明し、次世代自動車を率先販売

＜認証拡大途中であるため、拡大が完了する2024年度まで記載の活動を継続する＞

5. 環境経営目標および実績評価

(1) ATグループ全体

EA21環境経営 取り組み項目			基準年度実績	年度目標			2023年度実績	
			2019年度	2023年度	2024年度	2025年度		
二酸化炭素 排出量の削減	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績値比			実績	対目標比
	1%削減							
	エネルギー使用量 (原油換算値)	KI	13,077	12,946	12,946	12,946	13,311	102.8%
	電気(※1)	kWh	39,020,826	38,630,617	38,630,617	38,630,617	37,263,515	96.5%
	都市ガス	m³	693,611	686,675	686,675	686,675	530,053	77.2%
	LPG	m³	141,781	140,363	140,363	140,363	88,382	63.0%
	ガソリン(※2)	L	2,658,953	2,658,953	2,632,363	2,632,363	2,658,953	—
	軽油(※2)	L	996,645	986,679	986,679	986,679	840,202	85.2%
	二酸化炭素排出量	t-CO₂	26,179	26,094	26,094	26,094	26,292	100.7%
廃棄物排出量 の削減 (※3)	〔目標値設定基準率〕		基準年度	対前年			実績	対目標比
			2023年度	1%削減				
	一般廃棄物	t	860	860	851	842	860	—
	産業廃棄物	t	9,200	9,200	9,108	9,017	9,200	—
水使用量 の削減	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績値比			実績	対目標比
	1%削減							
	水使用量	m³	222,641	220,415	220,415	220,415	202,835	92.0%
化学物質 の削減	化学物質については、数値目標設定はしないが、PRTR第1種特定物質を含まない製品へ順次切替えていく							
古紙資源化 の推進	〔目標値設定基準率〕			再資源化			実績	対目標比
	古紙資源化率	%		100	100	100	100	100
次世代自動車の 推販 (自動車販売 全体) (※4)	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績比			実績	対目標比
	1%増							
	販売比率	%	40.9	41.9	41.9	41.9	48.2	115%

《エネルギー使用量に関する統括》

・全体的にエネルギー使用量は削減ができたが、今後も削減に向けて引き続き努力していく。

※1 電気の「二酸化炭素排出量」はトヨタエナジー排出係数を使用（2023年度 0.444kg-CO₂/kWh）を使用。

※2 ガソリン、軽油使用量については、2023年にLF/RAが参入したことから基準年度を2023年度とする。

※3 「一般廃棄物・産業廃棄物排出量」の削減については、データが集約可能になった2023年度を基準とする。

※4 「次世代自動車販売」はグループ自動車販売会社(ATE/ATW/AS)が対象。

(2) オートタウン高辻

EA21環境経営 取り組み項目			基準年度実績	年度目標			2023年度実績	
			2019年度	2023年度	2024年度	2025年度		
二酸化炭素 排出量の削減	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績値比			実績	対目標比
	1%削減							
	エネルギー使用量 (原油換算値)	KI	547	541	541	541	758	140.0%
	電気（※1）	kWh	1,562,872	1,547,243	1,547,243	1,547,243	2,065,593	133.5%
	都市ガス	m ³	72,713	71,986	71,986	71,986	58,339	81.4%
	LPG	m ³	—					
	ガソリン(※2)	L	179,701	179,701	177,903	177,903	179,701	—
	軽油(※2)	L	3,633	3,633	3,597	3,597	3,633	—
	二酸化炭素排出量	t-CO ₂	998	986	986	986	1,469	149.0%
廃棄物排出量 の削減 (※3)	〔目標値設定基準率〕		基準年度	対前年			実績	対目標比
			2023年度	1%削減				
	一般廃棄物	t	15.1	15.1	14.9	14.7	15.1	—
	産業廃棄物	t	24.9	24.9	24.6	24.3	24.9	—
水使用量 の削減	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績値比			実績	対目標比
				1%削減				
	水使用量	m ³	10,254	10,151	10,151	10,151	7,708	78.2%
古紙資源化 の推進	〔目標値設定基準率〕			再資源化			実績	対目標比
	古紙資源化率	%		100	100	100		

《エネルギー使用量に関する統括》

・電気が目標比を上回ってしまったが、これは換気を実施しながらのエアコン使用による負荷増加が要因であったと思われる。

※1 電気の「二酸化炭素排出量」はトヨタエネルギー排出係数を使用（2023年度 0.444kg-CO₂/kWh）を使用。

※2 ガソリン、軽油使用量については、2019年度以降に旧AT/LF/RAが参入したことや4販社統合による組織再編もあり人員が増えたことを勘案し基準年度を2023年度とする。

※3 「一般廃棄物・産業廃棄物」については、ATグループ全体にあわせて基準年度を2023年度とする

6. 環境経営の取組結果と評価

★エコアクション21審査

- ・2023年9月12日～16日の5日間で「エコアクション21外部審査」を実施しました。
- ・エコアクション21中央事務局判定会議においてATグループは「認証継続」の判定を受けました。
- ・「認証継続」の判定は受けましたが、指摘事項もいただいております、これらに対する対応を実施しました。

事業会社名	2022年度認証取得状況	サイト数
A Tグループ	本社	1
愛知トヨタ	本社および全拠点	96
カローラ愛豊		66
ネッツ愛知		33
ネッツ東海		21
L & F 中部		28
愛知スズキ		17
アトコノトランサット	本社および全拠点（フード部門を除く）	12
愛知クレジット	本社	1
システム愛知	本社および全拠点	2
A Tビジネス		5
健康保険組合	健保会館	1

★指摘事項＜フロン類簡易点検の未実施＞

- ・「フロン排出抑制法」では、フロン類を使用する第1種特定製品については、3カ月に1回の簡易点検の実施が求められているが、一部拠点において、簡易点検が実施されていない。

▶対応内容

- ・簡易点検が未実施であった事業場に対しては、速やかに簡易点検の実施を指示し、グループ内各社に対しても、同様な事案が発生しないよう注意喚起をするとともに、実施状況の確認をするように指示をいたしました。

6. 環境経営の取組結果と評価

★板金塗装拠点への定期監査を実施

- ・環境関連法令や労働安全衛生法の法令遵守状況を確認する目的で、板金・塗装業務を行うグループ事業会社の全拠点にて、定期監査を実施しました。
- ・塗料等や危険物管理の運用状況について現地調査を行った結果、全拠点で適正運用されていることを確認しました。

▶拠点内に掲示されている法定看板と危険物の保管状況



★EMS推進連絡会の定期開催

- ・四半期毎に、グループ事業会社の環境担当者が一同に会し、環境法令の改正状況、各社の環境活動の進捗状況や環境事故に関する情報共有を行う会議を開催しました。
- ・会議はタブレット端末を使用し、ペーパーレスで実施しました。

▶タブレット端末に投影した会議資料



★環境ポータルサイトの運用

- ・すべてのグループ事業会社を対象にエネルギー使用量や法令に関する情報など、環境に関する情報の見える化を図っています。
- ・今後はCO₂削減を推進していくための情報を掲載する等、コンテンツの充実を図っていく予定です。

▶環境ポータルサイトのTOPページと拠点のエネルギー使用量の表示画面



6. 環境経営の取組結果と評価

★環境教育ツールの活用

- ・環境に関する情報や取り組みの伝達ツールとして「e-information」を定期発行し、グループ全社に展開しています。
- ・グループ統一の取り組みや考え方を従業員一人ひとりに伝えるため、環境教育冊子を全社員に配布しています。また、業務に関わる環境法令を解説する「法令一覧」を管理職へ配布しています。



▶改訂した環境教育冊子「私たちができる職場の環境活動」

★環境マネジメント「EMSファイル」の活用

- ・環境情報を集約する「EMS運用ファイル」と環境関連法令に関わる記録類を集約する「記録・保管ファイル」を用いて、帳票類の一元管理を行っています。
- ・2冊のファイルはエコアクション21の認証を取得している全ての事業会社の拠点に配備しています。



▶グループ統一で使用している「EMSファイル」

★まちなかクリーンデーの実施

- ・毎月第2金曜日はATグループ統一の「まちなかクリーンデー」として、拠点周辺だけでなく、近隣まで範囲を広げ清掃活動を実施しています。

▶高辻地区の「まちなかクリーンデー」の様子



7. 環境関連法規則の遵守状況および評価

(1) ATグループ全体

法令等の名称		要求事項	該当の有無	評価
廃棄物	廃棄物処理法	産業廃棄物の適切な処理	○	○
		電子マニフェスト発行状況の報告	○	○
		収集運搬業者・処理委託業者との契約締結	○	○
	愛知県および名古屋市、廃棄物の適正な処理に関する条例	廃棄業者への現地確認実施	○	○
		現地確認の記録保管（5年間保管）	○	○
大気	フロン排出抑制法	定期点検、フロンガスの適正な回収	○	○
	自動車NOX・PM法	自動車から排出される窒素酸化物等の排出抑制に努める	○	○
水質	水質汚濁防止法	貯油施設の破損当、事故時の措置	○	○
	下水道法	下水道への不適物放流禁止の遵守	○	○
	浄化槽法	設置または変更時の届出	○	○
		保守点検	○	○
		年1回、水質に関する定期検査を受ける（11条検査）	○	○
騒音・振動	騒音規制法	規制基準の遵守	○	○
		騒音発生源となる特定施設設置時の届出	○	○
	振動規制法	規制基準の遵守	○	○
		振動発生源となる特定施設設置時の届出	○	○
再資源化	自動車リサイクル法	自動車所有者の責務遂行	○	○
		顧客から廃棄依頼された自動車・使用済車の適正な処理	○	○
	家電リサイクル法	特定家庭用機器（テレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機等）の適正な廃棄	○	○
化学物質 危険物	PRTR法	指定化学物質等の取扱い等自主管理	○	○
	消防法	油脂類保管量の遵守	○	○
		保管方法、設備や掲示物表示の遵守	○	○
	高圧ガス保安法	高圧アセチレンガスボンベの適切な取扱い	○	○
	労働安全衛生法	化学物質等の有害性等の調査および健康障害防止措置	○	○
エネルギー	省エネルギー法	連鎖化事業所としての特定事業者指定と削減計画の策定	○	○

(2) 環境関連の法規違反、苦情の有無

- ・過去3年間、環境関連法規の違反、関係当局からの違反等の指摘もありませんでした。
- ・騒音に関する苦情はありましたが、全て適切に対応し解決しています。

8. 代表者による全体評価と今後に向けて

◇環境マネジメント活動内容

2023年度のA Tグループでは、トヨタ系4販社(愛知トヨタ・カローラ愛豊・ネッツ愛知・ネッツ東海)の統合という大きな動きがありました。4社が愛知トヨタE A S T・愛知トヨタW E S Tという2社となりましたが、本部・拠点が一体となりスムーズに移行することができました。E M S活動においても混乱することなく、これまでの活動を展開することができたのは、この活動が現場に根付いた結果であると評価しています。A Tグループはエコアクション21認証企業において最大のサイト数を誇ります。今後もサイト数だけでなくE M S活動の内容においても評価いただけるよう、グループ全体で環境への取組みを推進してまいります。

◇環境法令の遵守状況

車両販売を中心とするグループ事業会社の拠点では、危険物(油脂類や塗料類)を使用していますが、これらは環境に与える影響が高いという点を重く受け止め、法令遵守を徹底するため、以下の取組みを推進しています。

- ・ **定期的な現地調査・監査**：グループ事業会社全体で、危険物の管理状況や排出状況について、定期的な現地調査や監査を実施し、法令違反の未然防止に努めています。
- ・ **油水分離槽の適切な維持管理**：油水分離槽を有する拠点では、外部委託業者による水質検査や定期清掃の実施により適正な維持管理をしています。
- ・ **従業員による騒音測定**：整備工場を有する拠点では、従業員自らが定期的に騒音測定を実施し、周辺環境への影響を最小限に抑えるよう努めています。
- ・ **環境データの公開**：EMS活動で得られた情報は、「環境経営レポート」や「環境ポータルサイト」で公開しています。

このような取り組みの結果、2023年度において行政や関係当局から環境法令に関する違反等の指摘を受けることはありませんでした。今後もA Tグループと事業会社が一体となり、コンプライアンスを第一に環境保全活動に取り組み、企業としての責任を果たしてまいります。

◇今後に向けて

2024年度、グループ会社の(株)アトコ食品部門がエコアクション21への参画を検討しており、認証取得ができればATグループ全体での認証取得が完了することから、アトコ食品部門への全面的なサポート体制を構築します。カーボンニュートラルや廃プラスチックの削減など、環境課題への取り組み姿勢は企業評価において重要な要素となっています。今後もA Tグループは環境問題へ真摯に向き合うことにより、地域社会やお客さまから選ばれる企業となるべく活動を推進してまいります。

2024年3月31日

株式会社A Tグループ

代表取締役社長 山口 真史

9. 2024年度 環境経営計画

(1) 環境経営目標

① 環境法令の遵守

- ・ 環境関連法令の改正情報についてWEBサービスを使用し定期的に監視する
- ・ 法令改正情報を随時伝達し情報共有する

② CO₂排出量の削減

《電力使用量の削減》

- ・ 節電啓蒙ポスターの掲示
- ・ 不要照明の消灯
- ・ 室内温度を基準とした空調設定（夏季：28℃・冬季：20℃）
- ・ クールビズ、ウォームビズの推進

《燃料使用量の削減》

- ・ 社有車全てエコカーを使用
- ・ エコドライブの推進

③ 廃棄物排出量の削減

- ・ 各所ごみ箱の設置数を制限し、発生抑制に努める
- ・ ごみ分別廃棄ルールを定め、分別廃棄を実施
- ・ 建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上

④ 水使用量の削減

- ・ 手洗い時の流し放しをしない
- ・ 施設設備は節水タイプを優先して使用

⑤ リサイクルの推進

- ・ 古紙は品目別に分別廃棄し、リサイクル可能な回収業者に委託
- ・ 資源ごみ（びん、缶、ペットボトル）はリサイクル可能な回収業者に委託

⑥ 社会貢献活動の推進

- ・ 毎月1回、地域貢献として近隣の清掃活動を実施
- ・ 地域への貢献活動を積極的に実施

⑦ 環境教育の実施

- ・ グループ統一、環境マネジメント「EMSファイル」を活用した包括的な管理を実施
- ・ 環境教育ツールを活用し、従業員教育を継続的に実施

⑧ 次世代自動車の推進

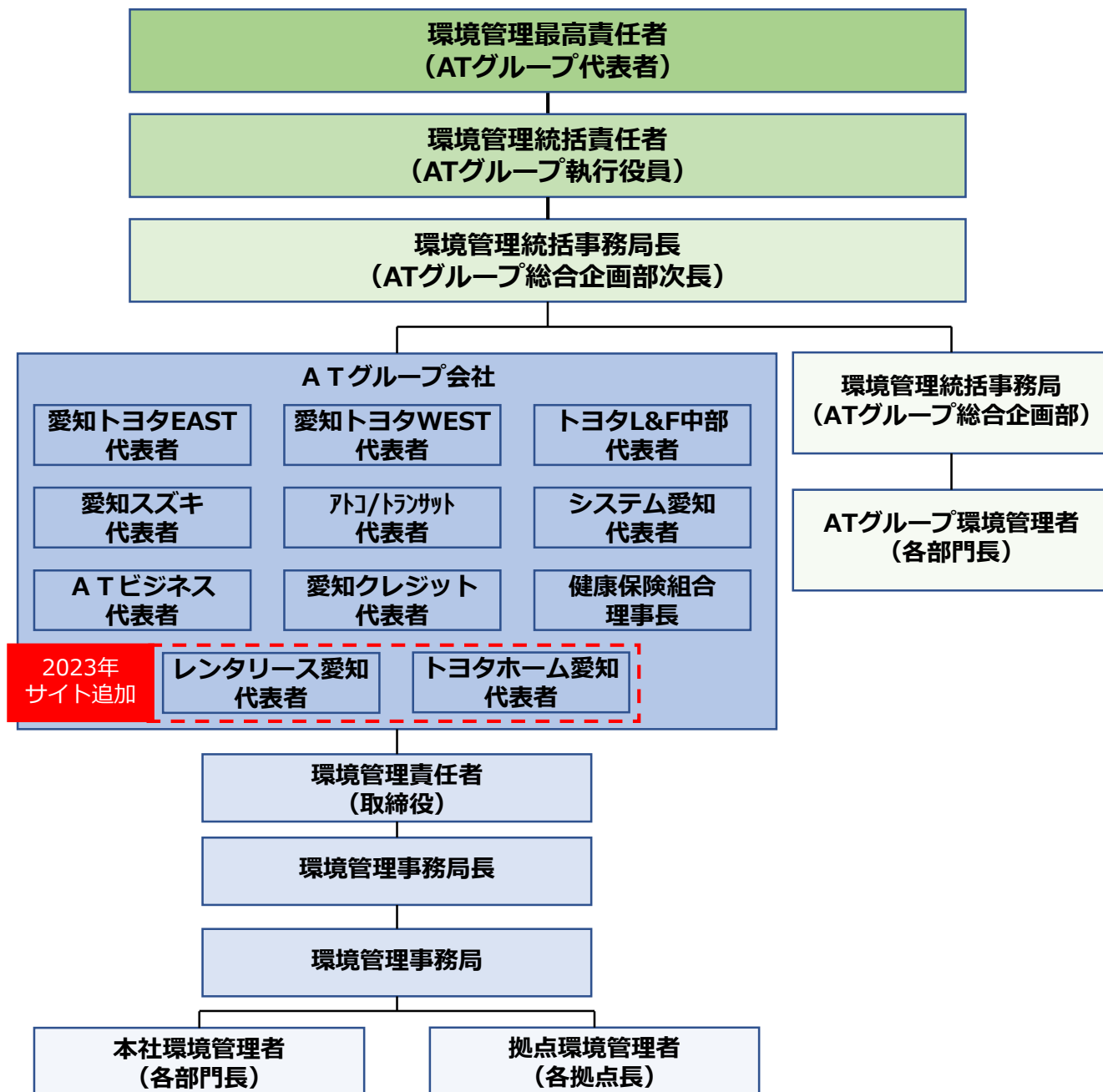
- ・ 低炭素社会へ貢献するため、次世代自動車の使用および販売を推進
（次世代自動車＝HEV、PHEV、BEV、FCEV）
- ・ お客さまへ自動車使用に関わる「環境影響」をご説明し、次世代自動車を率先販売

＜認証拡大途中であるため、拡大が完了する2024年度まで記載の活動を継続する＞

(2) CO₂削減に向けた取組事項
グループ統一取組事項「CO₂削減に向けた3つの“カエル”活動」

カエル項目	取組事項	対象			取組時期		該当の有無
		会社	拠点	従業員	2023年度	中長期	
モノを替える	省エネ機器の計画的導入	○	○		○		照明のLED化 省エネエアコンの導入 トイレ設備のリフォーム
	社有車の環境車両比率拡大 (EV,PHV,HEV,FCV)	○				○	ガソリン車・軽油車をEV・PHEV・ HEV・FCVへ切替
	拠点への自家消費型 太陽光発電導入	○				○	新設拠点の建築時に導入を検討 可能であれば既存拠点への導入も進 める
意識と行動 を変える	エネルギー使用量の 対前年1%削減	○	○	○	○		不要な照明清灯の徹底 働き方改革で退社時間を早める エアコン設定温度 (夏28℃ 冬20℃) の徹底
	ペーパーレスの推進	○	○	○	○		業務見直しによる紙使用量 コピー量の削減 リサイクルコピー用紙への切替
自然に 還る	環境活動への参加	○			○		植林事業等の環境活動支援
	再生エネルギーの導入	○				○	電力会社から販売されている再生エ ネルギー (太陽光,水力,風力等から 発電したクリーン電力を購入)

(3) 2024年度 エコアクション2.1 推進体制・組織図



(環境管理事務局 担当者)
 (株)ATグループ 総合企画部 総合企画課 子安 芳嗣
 (連絡先) 052-626-4389

【参考資料】

2023年度
グループ事業会社の取組結果

※活動取組事例は各社環境経営レポートから抜粋



◆愛知トヨタEAST株式会社 (主な業務：車両販売 対象拠点数：96)

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO ₂ 排出量 (t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kl	2022	4,138	100.7%	—
			2023	4,167		—
	電気	kWh	2022	13,521,848	92.8%	5,855
			2023	12,552,860		5,573
	都市ガス	m ³	2022	120,762	96.5%	264
			2023	116,548		255
	LPG	m ³	2022	64,110	90.7%	192
			2023	58,176		174
	ガソリン	L	2022	476,664	164.3%	1,106
			2023	783,243		1,817
	軽油	L	2022	97,294	110.6%	251
			2023	107,699		278
	水道	m ³	2022	55,333	62.8%	30
			2023	34,761		18
	二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	2021		105.6%	7,638
			2022			8,115

★エネルギー使用量に対する評価

電気使用量は対前年7.2%の削減を達成できたが、これは統合による稼働日数減も要因として考えられる。また、ガソリン使用量も対前年では大きく増加したが、これは本年度より営業社員使用分も含めた結果であり、来年度以降は注視が必要である。

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》

※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2022年度	2023年度
プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量	—	948.7

◆愛知トヨタEAST株式会社（主な業務：車両販売 対象拠点数：96）

《環境活動取組事例》

1. 「ATGガイドラインの遵守」

- ・重点管理設備日常点検確認シートを用いてエンジニアリーダーが毎週1回点検を実施し、不具合や事故を未然に防止する活動を行った

2. 「設備更新」

- ・空調設備を省エネタイプに更新した
照明を蛍光灯からLEDに順次更新した

3. 「水質検査」の実施

- ・拠点からの最終排水が、法定基準値を満たしているかを専門業者に委託して確認を行った
基準値超過があった拠点については、原因調査および再検査を実施した

4. 「緊急時想定訓練」の実施

- ・自然災害、人災によるオイル等の漏えいに関する対応方法を確認した
※9月：必要資材、使用方法などを確認
3月：水害発生を想定し、対応の優先順位を店舗特性に合わせて検討

5. 「コンプライアンス教育」の実施

- ・法令順守の手引き、環境ガイドライン、e-informationを使用して教育を行った

項目	内容	実施状況	備考
1. 重点管理設備日常点検確認シート	重点管理設備（空調設備、照明設備、排水設備等）の日常点検確認を行う。点検結果を記録し、不具合や事故を未然に防止する。	実施済み	
2. 設備更新	空調設備を省エネタイプに更新し、照明を蛍光灯からLEDに順次更新する。	実施済み	
3. 水質検査	拠点からの最終排水が法定基準値を満たしているかを専門業者に委託して確認を行う。基準値超過があった拠点については、原因調査および再検査を実施する。	実施済み	
4. 緊急時想定訓練	自然災害、人災によるオイル等の漏えいに関する対応方法を確認する。必要資材、使用方法などを確認し、水害発生を想定し、対応の優先順位を店舗特性に合わせて検討する。	実施済み	
5. コンプライアンス教育	法令順守の手引き、環境ガイドライン、e-informationを使用して教育を行う。	実施済み	

2023年2月24日発行 ver.4.0

Environment Management System EMS

情報提供「エコアクション21」

昨年、レンタリース開始・東一人間環境が関わったことにより、ATグループ企業全体のエコアクション21達成率が向上しました。そこで、あらためてみなさんにエコアクション21についてご紹介します。

「エコアクション21」ってなに？

●環境負荷削減、CO2削減、資源物削減などを目的とした環境管理の取り組みです。企業全体で取り組むことで、環境負荷の削減に貢献します。

エコアクション21とは？

●エネルギー使用量、CO2削減、資源物削減などを目的とした環境管理の取り組みです。企業全体で取り組むことで、環境負荷の削減に貢献します。

何をやってるの？

●エネルギー使用量、CO2削減、資源物削減などを目的とした環境管理の取り組みです。企業全体で取り組むことで、環境負荷の削減に貢献します。

達成目標のメリットは？

●エネルギー使用量、CO2削減、資源物削減などを目的とした環境管理の取り組みです。企業全体で取り組むことで、環境負荷の削減に貢献します。

「職場ポータル」で自拠点のエネルギー使用量データをチェックしてみよう！

◆愛知トヨタWEST株式会社 (主な業務：車両販売 対象拠点数：106)

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO ₂ 排出量 (t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kl	2022	5,175	100.8%	—
			2023	5,217		—
	電気	kWh	2022	16,020,495	95.6%	6,937
			2023	15,320,725		6,802
	都市ガス	m ³	2022	394,943	95.7%	865
			2023	378,117		828
	LPG	m ³	2022	33,925	90.9%	101
			2023	30,838		92
	ガソリン	L	2022	549,170	151.9%	1,274
			2023	834,313		1,935
	軽油	L	2022	110,399	88.0%	284
			2023	97,253		251
	水道	m ³	2022	70,338	91.4%	38
			2023	64,333		34
	二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	2022		104.6%	9,499
			2023			9,942

★エネルギー使用量に対する評価

電気使用量は対前年7.2%の削減を達成できたが、これは統合による稼働日数減も要因として考えられる。また、ガソリン使用量も対前年では大きく増加したが、これは本年度より営業社員使用分も含めた結果であり、来年度以降は注視が必要である。

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》

※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2022年度	2023年度
プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量	—	1572.2

◆愛知トヨタWEST株式会社（主な業務：車両販売 対象拠点数：106）

《環境活動取組事例》

- 1. 「ATGガイドラインの遵守」
 - 重点管理設備日常点検確認シートを用いてエンジニアリーダーが毎週1回点検を実施し、不具合や事故を未然に防止する活動を行った
- 2. 「設備更新」
 - 空調設備を省エネタイプに更新した
 - 照明を蛍光灯からLEDに順次更新した
- 3. 「水質検査」の実施
 - 拠点からの最終排水が、法定基準値を満たしているかを専門業者に委託して確認を行った
 - 基準値超過があった拠点については、原因調査および再検査を実施した
- 4. 「緊急時想定訓練」の実施
 - 自然災害、人災によるオイル等の漏えいに関する対応方法を確認した
 - ※9月：必要資材、使用方法などを確認
 - 3月：水害発生を想定し、対応の優先順位を店舗特性に合わせて検討
- 5. 「コンプライアンス教育」の実施
 - 法令順守の手引き、環境ガイドライン、e-informationを使用して教育を行った

1. 水質検査結果一覧

表-1 2023年度水質検査結果一覧

項目	検査項目	測定値	基準値	結果
1. 水質検査結果一覧	1.1 最終排水	1.1.1 BOD	100 mg/L	○
	1.1.2 COD	100 mg/L	100 mg/L	○
	1.1.3 SS	100 mg/L	100 mg/L	○
	1.1.4 pH	6.5	5.0~9.0	○
	1.1.5 水温	25.0℃	10~30℃	○
	1.1.6 溶解酸素	8.0 mg/L	5.0 mg/L	○
	1.1.7 濁度	10 NTU	10 NTU	○
	1.1.8 油分	10 mg/L	10 mg/L	○
	1.1.9 塩素	0.1 mg/L	0.1 mg/L	○
	1.1.10 重金属	0.1 mg/L	0.1 mg/L	○
2. 水質検査結果一覧	2.1 最終排水	2.1.1 BOD	100 mg/L	○
	2.1.2 COD	100 mg/L	100 mg/L	○
	2.1.3 SS	100 mg/L	100 mg/L	○
	2.1.4 pH	6.5	5.0~9.0	○
	2.1.5 水温	25.0℃	10~30℃	○
	2.1.6 溶解酸素	8.0 mg/L	5.0 mg/L	○
	2.1.7 濁度	10 NTU	10 NTU	○
	2.1.8 油分	10 mg/L	10 mg/L	○
	2.1.9 塩素	0.1 mg/L	0.1 mg/L	○
	2.1.10 重金属	0.1 mg/L	0.1 mg/L	○

ATグループ

環境ガイドライン

【第5版】
2024年6月1日

AT group

1針)に基づき、グループ各拠点(EMS)を実施していただくため、本ガイドラインの「要求事項」を、

株式会社ATグループ
総合企画部 総合企画課

イン 2024年版 ■

要求事項	ページ
P1	
P2	
推進事項を確認する	P3
図を作成する	P4
図を作成する	P5
図を作成する	P6
「責任」を確認する	P7
	P8
社会貢献活動の参加	P9
図を実施する	P10
図を実施する	P12
レポートを作成する	P13
13 環境経営計画に準拠した取組の検証および改善を実施する	P14
14 環境管理責任者は全体評価の所見を、指示を実施する	P15

◆トヨタ L & F 中部株式会社 (主な業務：産業車両・物流機器販売 対象拠点数：29)

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO ₂ 排出量 (t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kl	2022	1,482	98.5%	—
			2023	1,460		—
	電気	kWh	2022	2,803,247	98.6%	1,306
			2023	2,765,547		1,228
	都市ガス	m ³	2022	2,026	104.1%	4.4
			2023	2,110		4.9
	LPG	m ³	2022	7,889	6.9%	23.7
			2023	552		1.6
	ガソリン	L	2022	483,673	96.7%	1,122
			2023	467,770		1,085
	軽油	L	2022	335,966	100.5%	867
			2023	337,841		871
	水道	m ³	2022	19,027	103.9%	10.3
			2023	19,783		10.6
	二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	2022		95%	3,333
			2023			3,201

★エネルギー使用量に対する評価

全体として、ほぼ前年並みの使用量となった。その中で電気使用量は対前年を下回っており、引き続き、全社への無駄な電気を使用しないよう啓蒙を継続していく。

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》

※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

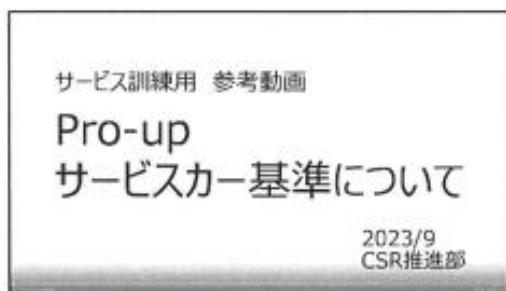
	2022年度	2023年度
プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量	233.7	215.1

◆トヨタ L & F 中部株式会社 (主な業務：産業車両・物流機器販売 対象拠点数：29)

《環境活動取組事例》

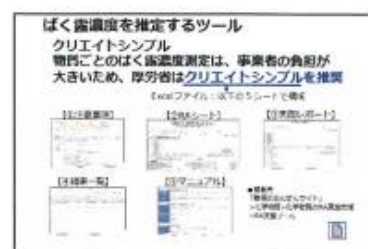
1. 「現場訓練動画」の展開

- ・「サービスカーPRO-up基準」に則した教育動画を作成し、各拠点の現場訓練動画教育教材として取り入れました
各拠点での実施状況については「訓練報告書」の提出によって確認しました



2. 現場訓練動画の展開

- ・「化学物質管理者特別教育」を受講し、4月よりクリエイトシンプルを活用した化学物質に対するリスクアセスメントを行いました
合わせて今期より「安全衛生組織表」に化学物質管理者と保護具着用管理責任者を追加しました



◆株式会社トヨタレンタリース愛知 (主な業務：自動車レンタル 対象拠点数：71)

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO ₂ 排出量 (t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kl	2022	509	90.3%	—
			2023	460		—
	電気	kWh	2022	1,555,617	87.3%	661
			2023	1,358,483		604
	都市ガス	m ³	2022	1,423	107%	3.2
			2023	1,523		3.4
	LPG	m ³	2022	7	35.7%	0
			2023	2.5		0
	ガソリン	L	2022	113,695	102.2%	263
			2023	116,210		269
	軽油	L	2022	5,430	98.4%	14
			2023	5,346		13.7
	水道	m ³	2022	12,357	101.2%	6.7
			2023	12,507		6.8
	二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	2022		94.6%	947.9
			2023			896.9

★エネルギー使用量に対する評価

拠点設備のLED化の効果もあり、電気使用量は対前年11.7%の削減を達成できた。
引き続きエネルギー使用のムダをなくすよう従業員への啓蒙を行っていく。

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》

※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2022年度	2023年度
プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量	8.5	11.7

◆株式会社トヨタレンタリース愛知 (主な業務：レンタカーの貸出し 対象拠点数：52)

《環境活動取組事例》

1. 「電気使用量の削減」

・「照明設備のLED化」

事務所内照明LED化 17店舗 店舗看板のLED化 25店舗を行いました
(※洗車場、駐車場の未LED化の16店舗は来期以降に実施予定)

単位：千円

内容	店舗数	設置場所	金額
照明LED化工事	17 拠点	事務所内	13,200
	25 拠点	看 板	272,900

2021 年	2022 年	2023 年	電気使用増減量 (対前年)
1,541,950kwh	1,548,871kwh	1,358,483kwh	△ 190,388kwh

2. 「社会貢献活動」

- ・ペットボトルキャップを資源として活用することでポリオワクチンの寄付を行いました
また、同時にCO2排出量の削減につなげることができました

エコキャップ集計

		個数	重さ	CO2 削減量	860 個/人
					ワクチン本数/人
					ポリオワクチン
2017 年	52 期	231,079 個	470 kg	1,721 t	273 人
2018 年	53 期	187,536 個	462 kg	1,693 t	269 人
2019 年	54 期	189,626 個	375 kg	1,374 t	218 人
2020 年	55 期	120,520 個	379 kg	1,389 t	220 人
2021 年	56 期	109,865 個	241 kg	883 t	140 人
2022 年	57 期	90,773 個	220 kg	805 t	128 人
2023 年	58 期	69,901 個	140 kg	512 t	81 人
合計		999,300 個	2,147 kg	7,864 t	1,248 人分

重さ=個数/500

CO₂ 削減量=((個数/860)*6300)/1000

ワクチン数=個数/860

◆愛知スズキ販売株式会社 (主な業務：車両販売 対象拠点数：17)

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO ₂ 排出量 (t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kl	2022	526	110.1%	—
			2023	579		—
	電気	kWh	2022	1,296,117	114.9%	661
			2023	1,489,488		604
	都市ガス	m ³	2022	316	80.3%	0.8
			2023	254		0.5
	LPG	m ³	2022	0	—	0
			2023	0		0
	ガソリン	L	2022	176,022	100.6%	411
			2023	177,208		440
	軽油	L	2022	36,645	106%	87
			2023	38,467		99
	水道	m ³	2022	7,277	104.9%	3.9
			2023	7,639		4.1
	二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	2022		103.2%	1,111
			2023			1,147

★エネルギー使用量に対する評価

電気使用量は対前年14.9%増という結果となった。これは入庫台数増による拠点の稼働時間増や猛暑によるエアコン使用が原因と考えられる。

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》

※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2022年度	2023年度
プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量	76.1	340.1

-29-

◆株式会社アトコ/トランサット (主な業務：車両回送 対象拠点数：17/3)

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO ₂ 排出量 (t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kl	2022	496	112.5%	—
			2023	558		—
	電気	kWh	2022	937,438	101.2%	436
			2023	949,383		421
	都市ガス	m ³	2022	7,344	102.7%	16
			2023	7,549		17
	LPG	m ³	2022	5,994	92.7%	18
			2023	5,556		17
	ガソリン	L	2022	52,988	129%	123
			2023	68,358		158
	軽油	L	2022	204,827	124%	528
			2023	253,988		655
	水道	m ³	2022	16,009	100.5%	8.6
			2023	16,095		8.7
	二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	2022		113%	1,129.6
			2023			1,276.7

★エネルギー使用量に対する評価

使用量が全体的に前年を上回る結果となってしまった。中でもガソリンや軽油の使用量が前年よりも増えたことから、従業員へエコドライブの実践を促していきたい。

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》

※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2022年度	2023年度
プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量	2.7	2.2

◆株式会社アトコ/トランサット（主な業務：車両回送 対象拠点数：17/3）

《環境活動取組事例》

1. 「再資源化・再利用」の取組み

- ・「アイシティーecoプロジェクト」への参加
2023年5月より、コンタクトレンズの使用済み
空ケースを回収して再資源化する活動に参加し
ました
回収容器を各所に設置してポスターを掲示し
意識向上を行いました



- ・「クリアファイルリユース」の取組み
各部門でクリアファイルの使用が多く、廃棄量も多かったことから、本社部門
（総合企画部、フード部門、建築部門）でクリアファイルの共有再利用（リユース）を目的とした「クリアファイル入れ」を設置して再利用を促進しました



◆トヨタホーム愛知株式会社 (主な業務：住宅施工・販売 対象拠点数：16)

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO ₂ 排出量 (t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kl	2022	329	98.8%	—
			2023	325		—
	電気	kWh	2022	514,974	96.8%	223
			2023	498,587		221
	都市ガス	m ³	2022	1,045	23.6%	1
			2023	247		0.5
	LPG	m ³	2022	428	23.3%	1.2
			2023	100		0.3
	ガソリン	L	2022	219,114	100.3%	508
			2023	219,896		510
	軽油	L	2022	該当なし		
			2023			
	水道	m ³	2022	239	67.7%	0.1
			2023	162		0.08
二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	2022		99.8%	733.3	
		2023			731.9	

★エネルギー使用量に対する評価

全体的に使用量は減少しているが、特にガス機器の使用拠点が減ったこともあり、ガス使用量は大きく削減した。引き続き従業員へ無駄なエネルギー使用をしないという意識を持つよう啓蒙していく。

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》

※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2022年度	2023年度
プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量	1,272 t	1,266 t

◆トヨタホーム愛知株式会社 (主な業務：住宅の販売 リフォーム 対象拠点数：16)

《環境活動取組事例》

1. 「防災備蓄品の寄付」による有効活用

- ・「入替時期の迫った防災備蓄品（乾パン、ミニクラッカー）を中部善意銀行さまへ寄付をしました
愛知県母子寡婦福祉連合会を通じて愛知県内のひとり親家庭のご家族さまに届けることができました



2. 「PEFC認証コピー紙」の積極的使用

- ・持続可能な森林保全に寄与することを目的として「PEFC認証」を受けたコピー用紙を積極的に使用しました



3. 「再利用可能な床養生材」の利用

- ・新築施工現場で使用する床養生材に再利用可能な製品を使用することで廃棄物の削減と原材料の有効活用につなげることができました



◆愛知クレジットサービス株式会社（主な業務：自動車ローン 対象拠点数：1）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO ₂ 排出量（t）
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量（原油換算値）	kl	2022	12	100%	—
			2023	12		—
	電気	kWh	2022	38,871	104.9%	16.8
			2023	40,778		18.1
	都市ガス	m ³	2022	該当なし		
			2023			
	LPG	m ³	2022	該当なし		
			2023			
	ガソリン	L	2022	1,846.4	102.5%	4.2
			2023	1,893.3		4.6
	軽油	L	2022	該当なし		
			2023			
	水道	m ³	2022	該当なし		
			2023			
	二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	2022		108%	21
			2023			22.7

★エネルギー使用量に対する評価

電気使用量は対前年4.9%増となったが、これは猛暑によるエアコン使用増の影響が大きいと思われる。これからも従業員の健康に留意しつつ適切な使用を実践していく。

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》

※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2022年度	2023年度
プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量	—	—

◆愛知クレジットサービス株式会社（主な業務：自動車ローン 対象拠点数：1）

《環境活動取組事例》

1. 「廃棄物の適正排出」

- ・ATG西館では、回収箱の統一を行い分別表示し仕分けしやすい環境にしました
また、ATG西館4階の紙資源回収場所に台車を設置して運びやすくしました



2. 「フロン排出抑制法」の対応

- ・法令に基づき業務用エアコンの簡易点検を行いました
（6、9、12、3月）

3. 「清掃活動」の実施

- ・本社周辺の清掃活動を
毎月第2金曜日に行いました



◆トヨタ情報システム愛知株式会社（主な業務：システム開発 対象拠点数：2）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO ₂ 排出量（t）
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量（原油換算値）	kl	2022	230	100.9%	—
			2023	232		
	電気	kWh	2022	725,344	99.6%	338.0
			2023	723,088		321.0
	都市ガス	m ³	2022	33,156	103.7%	71.6
			2023	34,389		76.6
	LPG	m ³	2022	該当なし		
			2023			
	ガソリン	L	2022	6,112.5	114.4%	14.2
			2023	6,995.3		16.2
	軽油	L	2022	該当なし		
			2023			
	水道	m ³	2022	3,085	116.6%	1.7
			2023	3,598		1.9
	二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	2022		99%	425.5
			2023			415.7

★エネルギー使用量に対する評価

全体的に昨年並みの使用量となったが、ガソリン使用量が大きく増加傾向にあることから、エコドライブの啓蒙や社用車の代替時は環境車両導入を進めていく。

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》

※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2022年度	2023年度
プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量	1.8	2.0

◆株式会社A Tビジネス (主な業務：間接業務 対象拠点数：5)

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO ₂ 排出量 (t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量 (原油換算値)	kl	2022	531	91.1%	—
			2023	484		—
	電気	kWh	2022	1,912,865	88.9%	820.6
			2023	1,701,116		755.3
	都市ガス	m ³	2022	2,829	108%	6.3
			2023	3,057		6.8
	LPG	m ³	2022	6,823	95.6%	20.5
			2023	6,528		19.5
	ガソリン	L	2022	29,026	124.4%	67.1
			2023	36,105		83.7
	軽油	L	2022	513	409%	1.3
			2023	2,100		5.4
	水道	m ³	2022	10,195	96.9%	5.5
			2023	9,880		5.3
	二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	2022		95%	921.3
			2023			876

★エネルギー使用量に対する評価

全体的には対前年並みという結果であったが、ガソリン使用量は対前年を大きく上回ったことから、従業員への使用量削減に向けた働きかけを行っていきたい。

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》

※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2022年度	2023年度
プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量	347.6	363.7

◆株式会社A Tビジネス (主な業務：間接業務 対象拠点数：5)

《環境活動取組事例》

1. 「一般廃棄物削減のための資源化対策」の実施

- ・リサイクルできる古紙の分別を確実にできるように仕分けBOXを追加で設置し紙を資源化する働きかけを行いました



2. 「緊急時想定訓練」と「e-informationを通じた教育活動」

- ・例年実施している年2回の緊急時想定訓練（オイル流出、止水訓練）に加えて今年度は「災害時に備蓄品を配布する」オペレーションを実践しました
災害発生時の対応に関して備えの幅が広がりました
また、e-informationの発行時に全員が確認できるよう、Office365トピックスへ表示をして環境に対する理解活動を行いました



◆ A Tグループ健康保険組合 (主な業務：社会保険業務 対象拠点数：1)

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO ₂ 排出量 (t)
二酸化炭素 排出量の削減	エネルギー使用量（原油換算値）	kl	2022	35	108.5%	—
			2023	38		—
	電気	kWh	2022	98,756	108.6%	46
			2023	107,325		42.6
	都市ガス	m ³	2022	3,843	99.6%	8.9
			2023	3,826		8.5
	LPG	m ³	2022	該当なし		
			2023			
	ガソリン	L	2022	2,367	103.8%	5.5
			2023	2,458.4		5.7
	軽油	L	2022	3,067	111%	7.9
			2023	3,407.2		8.8
	水道	m ³	2022	714	126%	0.4
			2023	899		0.5
	二酸化炭素排出量合計	t-CO ₂	2022		97%	68.1
			2023			66.1

★エネルギー使用量に対する評価

全体的に増加傾向にあるため、エネルギー使用量のムダをなくすよう従業員への働きかけを行っていく。

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》

※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2022年度	2023年度
プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量	0.87	0.58

-41-